

議事要旨

日本学術会議 物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会（第25期第10回）

日時：2023年7月12日（水）13:00-13:25、14:10-14:40

場所：オンライン会議

出席者：梶田 隆章、田近 英一、山崎 典子、相川 祐理、浅井 歩、生田 ちさと、今田 晋亮、坂井 南美、佐々木 晶、新永 浩子、住 貴宏、田代 信、常田 佐久、中畑 雅行、林 正彦、深川 美里、藤井 良一、藤澤 健太、観山 正見、山田 亨、渡部 潤一

欠席：奥村 幸子、須藤 靖、千葉 柁司、村山 齐

オブザーバー：國中 均（宇宙科学研究所長）、大栗 博司（東京大学 Kavli IPMU 所長）、井田 茂（日本天文学会会長）、藤澤 健太（宇電懇委員長）、長尾 透（光赤天連運営副委員長）、堂谷忠靖（高宇連会長）、今田 晋亮（太陽研連会長）、山岡 均（国立天文台）、大石 雅寿（国立天文台）、富田 晃彦（和歌山大学）、清水 敏文（宇宙科学研究所）、廣田 朋也（国立天文台）

（順不同、敬称略）

資料

資料1：天宇1_20230712 天宇分科会

資料2：天宇2_天文学・宇宙物理学の長期計画 v2

資料3：天宇3_査読番号39_コメント表(第三部)回答

資料4：機関報告(国立天文台)

林委員長が議長を務めて司会進行した。以下、(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。

(1) 共同利用関連機関等からの報告

1. 東京大学 Kavli IPMU（大栗所長）

Kavli IPMU の中に Center for Data-Driven Discovery を設置することが認められた。ジア・リュウ准教授を所長に任命。テニュアトラック教員を2名公募している。神岡、LiteBIRD、すばる望遠鏡などが生み出すビッグデータを科学的発見につなげることを目指すものである。また、チリ・アタカマ高地からの CMB 観測、大型液体 Xe を用いた宇宙暗黒物質の直接探索実験の2件を学術会議の「未来の学術振興構想」へ応募したこと、IPMU の次期機構長選考手続きが進行中であること等が報告された。

2. 宇宙科学研究所（國中所長）

X 線観測衛星 XRISM および月着陸実証機 SLIM の打ち上げ日程が公表された。HII-A-47 号機により、本年 8 月 26 日からの打ち上げウィンドウで準備が進められている。XRISM は 2016 年の Astro-H の後継機であり、この成果を次世代の国際 X 線望遠鏡計画へつなげていく予定。SLIM に関連して、米国などでは私企業も含めて月着陸計画が活発化している。

3. 国立天文台（常田台長）【資料 4：機関報告(国立天文台)】

- (1) TMT の状況。NSF におけるプロセスの進展、ハワイの状況の改善、TMT 国際天文台での議論の様子等が報告された。
- (2) 国立天文台の予算。電気料金の高騰および日本円安の影響（外国送金）が大きいことの報告があった。
- (3) 野辺山 45m 電波望遠鏡について。2022 年度から観測時間を有料化する新たな運用が開始されており、その運用状況の報告があった。これを定常的に継続することが次の課題だが、ひとまず良好なスタートを切ったと考えられる。
- (4) その他の報告。日本を取り巻く課題、大学共同利用機関の課題、国立天文台の課題について少し大きい観点で政策立案者と対話を行っている。このほか、NASA 科学局長の来訪、東京大学 TAO 望遠鏡の運用協力覚書を締結したこと、イゲ前ハワイ州知事へ感謝状を贈呈したこと等の報告があった。

Q（相川）：野辺山 45m 電波望遠鏡の観測時間有料化に伴い、とりわけ地方大学などで、観測実習をあきらめたようなケースはないか。

A（常田）：現時点では正確に回答できないが、野辺山 45m 電波望遠鏡の実習が大学における教育に果たす役割の大きさは認識している。調査の上、必要に応じて対応をする。

（参加者の都合により、（2）の総会報告の前に IAU 分科会が開催された）

（2）総会報告（山崎会員）【資料 1：天宇 1_20230712 天宇分科会】

1. 総会報告

2023 年 4 月 17-18 日に総会が開催された。資料は公開されている。1 日目は内閣府より法律改正案が提示され、内閣府大臣官房総合政策推進室長と議論が行われた。選考諮問委員会の人選、役割、運用について議論したが、明確な答えは得られなかった。

この状況を踏まえて、2 日目は、勧告「日本学術会議のあり方の見直しについて」と声明「「説明」ではなく「対話」を、「拙速な法改正」ではなく「開かれた議論」を」を決議し、法改正の停止と今後の議論の継続を求めた。これに関する日刊工業新聞の記事の紹介があった。

これらを踏まえて、政府は4月20日に学術会議法改正案の国会提出を見送るとの判断をだした。ただしその後も「開かれた議論の場」の設定は行われておらず、学術会議側は幹事会後の記者会見等でも訴えている。

2. 次期会員・連携会員の選考状況

現在、次期会員・連携会員の選考が行われている。次回の総会は7月16日に開催され、次期会員・連携会員の推薦名簿に関することが大部分となる見込み。

3. 未来の学術振興構想の策定状況

グランドビジョン案は、19個にまとめる作業が進んでいる。田近氏が理工ワーキング長として作業に当たっている。19個のうち宇宙関係はある程度まとまった形になっている。各掲載計画には2ページのサマ리를付録として掲載する予定である。

Q (渡部)：会員選考に外部メンバーは入るのか？

A (山崎)：入らない。今回は学術会議法改正案の国会提出は見送られたので前回と同様の手続きとなる。

C (林)：次回7月16日の総会で新会員候補が決まり、候補者に連絡が行った後、内閣総理大臣の承認を経て、10月1日に公開となると思う。

C (山崎)：前回、任命拒否の問題があったので選考と公表のプロセスには注目している。記者会見資料などが参考になる。

(3) 長期計画冊子の進捗状況 (林)【資料2：天宇2_天文学・宇宙物理学の長期計画v2、資料3：天宇3_査読番号39_コメント表(第三部)回答】

3月末に最終版を確定し、メール審議で承認を得たのち、上部委員会へ報告・提出して、査読が行われた。査読の意見と対応は以下の通り。この冊子の意義は認められているので、適宜修正すれば記録として残すことができる見込みである。序章と第2-7章の関係が読み取りにくいので整理すること、および各プロジェクトのまとめの表を掲載することが提案されているので、対応した。また、各コミュニティのロードマップを掲載する提案があったので、掲載を行うこととした。特にまとめの表について、最終的に各コミュニティの意見を聞いたうえで、7月13日に再投稿する予定である。

(4) その他

1. 次回の分科会は9月13日13:30から開催する。
2. 日本天文学会秋季年会の前後に学術会議分科会の報告会を行うことにした。日時は世話人で議論する。

(以上)